

# 生きものひたち紀行 —常陸の山海に息づく命を見つめて—

教育・研究 課外活動

〔代表者〕 理学部 4年 小泉 智弘

## 連携先

・水戸市立博物館（マップ配布およびマップ用写真協力先）・日立市シビックセンター科学館（マップ配布先）・大洗海洋博物館・大洗わくわく科学館・茨城大学五浦美術文化研究所六角堂（マップ配布先）・日立市郷土博物館（マップ配布先）・アクアワールド大洗（マップ配布先）・水戸市森林公園・ミュージアムパーク茨城県自然博物館（マップ配布先）・水戸市立中央図書館（マップ配布先）・茨城県立図書館（マップ配布先）

## 顧問教員

中 村 直 美 （教育学部・教授）

## 参加者

小 泉 智 弘 （理学部 4年）  
竹 谷 知 幸 （理学部 4年）  
鍋 田 健 人 （理学部 2年）  
細 井 淳 駿 （理学部 2年）  
白 土 和 磨 （理学部 2年）  
櫻 井 俊 介 （理学部 2年）  
小 林 健 太 （理学部 2年）  
矢 吹 健 太 （理学部 1年）

## プロジェクトの申請内容

### (1) 概要

去年より運営している本プロジェクトは、県内の博物館などと連携・協力し、引き続き各地の生きものの観察できる様々な自然スポットにおいて、そこに生息する生物相

の調査を基に『生きものマップ』製作を行なう。

地域の自然環境とふれあい、その環境における生態系を人間活動と共存しながら維持することは、自然保護においては最も難しく重要な課題である。また、近年の所謂『理科離れ』が問題となっているが、これは自然への刺激が少なくなったことが影響していると考えられる。このため、少しでも若い世代に地域の自然とふれあう機会を作り、関心を高める必要がある。

本プロジェクトでは、新たに千波湖および会瀬海岸を調査地に加え、茨城県海岸線および水戸市近辺の生物相を調査し、引き続き生物のデータベースを作成する。また、これらの調査結果を基にしてまとめた、パンフレット式の『生きものマップ』を図書館や博物館などと協力して、作成する。前年度の生きものマップについても、画像などの問題点を修正した改訂版を発行し、より正確な情報を伝えられるようにする。これらが地域の生物への関心を高める一助となり、調査結果を将来に残せるものとしたい。

### (2) 調査計画

調査方法は、以下のように行なう。

- A. 海岸の場合—北茨城市、日立市、大洗町の、海岸の生物相に対し、月1度の割合で干潮前後の2時間にわたって調査を行なう。

- B. 里山の場合ー水戸市近辺の代表的な里山である、水戸森林公園の調査を行い、生物多様性について再度調査する。

これらの調査結果と博物館から提供されたデータを利用し、パンフレットを製作する。なお、パンフレットにはQRコードを利用し、紙面に載せきれない多様な情報をも掲載できる形式にする。

### (3) 連携の方法・内容

それぞれの連携先からは助言やデータを頂き、我々は地域の身近な生物についての調査情報を提供し、協力を得ながら「生きものマップ」のパンフレットを作成する。連携先にはパンフレットの配布をお願いする。なお、先方の都合上、連携先としては挙げていないが、マップ配布の協力をいただけたところが他にもあることを付記しておく。

また、本年度は県内の高校と連携し、高校生を対象とした現地での生きもの観察会を試験的に導入し、開催する予定である。(地点：茂宮川河口干潟、日時：8月中旬の大潮の日を予定)さらに、今年度の観察会が成功した場合、将来的には連携先との共催により、同様な観察会を行なえるようにしたい。

### (4) 期待される結果

本プロジェクトで作成したパンフレットは、読者の地域の生物に対する知識・理解および興味・関心を高める効果があると期待される。また、地域の生物を知ること、環境保護への意識や郷土への関心も高まる成果があると予想される。

さらに、県内の高校生達に自然観察を通じ

て、郷土の自然環境や自然生態系の関心を高めさせ、生物への理解を深める一助となると予想される。

## プロジェクトの実施概要

本プロジェクトは、県内の博物館と連携・協力し、引き続き各地の生きものの観察できる様々な自然スポットにおいて、その場所の紹介をするパンフレット式の『生きものマップ』製作と、生きもの観察会を行なった。

地域の自然環境とふれあい、その環境における生態系を人間活動と共存しながら維持することは、自然保護においては最も難しく重要な課題である。この問題に一石を投じ、若い世代の地域の自然とふれあう機会を作り、関心を高める必要があると考え、当プロジェクトの運営を開始した。

今年度の生きものマップは、昨年度制作したマップの内容の改訂、千波湖・会瀬海岸の新たな調査地のマップ制作、生物データベースの作成を行い、これらを図書館や博物館などに配布した。なお、パンフレットにはQRコードを利用し、紙面に載せきれない多様な情報も掲載可能である。

また、本年度は県内の中高生を招き、高校生を対象とした生きもの観察会を導入・開催した。

## プロジェクトの成果報告

本プロジェクトの成果の一点として、「生きものマップ」のより緻密な製作に成功したことがあげられる。昨年度の「生きものマップ」は、季節性に欠ける・掲載されている生物に偏りが見られるなどの欠点を多く携えていた。今年度はこれらの欠点を解

消するため、博物館からの提供された写真を用いてより緻密かつ季節性を重視した第2版を製作した。(ただし、昨年度製作した、⑥鹿島灘海岸および⑦平磯海岸の改訂は、来年度以降に行う予定である) また、昨年度よりも多く生きものマップを増刷且つ配布場所を増やし、人の目に触れる機会をより多くすることができた。

今年度大きく前進した点として、「生きもの観察会」を実施したことが挙げられる。今年度は、8月中旬頃に茂宮川河口干潟にて茨城高等学校の中高生らを招いて観察会を実施した。観察会は参加した学生達にもおおむね好評であった。今後はよりわかりやすく印象に残りやすい観察会を目指し、また実施する地域も(候補として、千波湖・水戸市森林公園など)増やす予定である。

今年度の反省点として、観察会を開催する回数が少なかったことである。これは、茂宮川河口干潟以外の地域の生物相に関するデータが少なかったことが原因である。来年度はこの反省点を踏まえ、多数の観察会を実行することを計画している。

来年度の計画として、他地域(現況では、千波湖・逆川緑地・赤羽緑地・平磯海岸・会瀬海岸・水戸市森林公園を予定)マップ製作を継続しつつ、地域の小中高の学校にてポスターの掲示を行い、地域の青少年に対して、より地域の自然への関心を高める活動の企画を考えている。また、日立市郷土博物館や水戸市立博物館と共同した企画の話も上がっており、博物館の特別展に連携した企画も予定している。



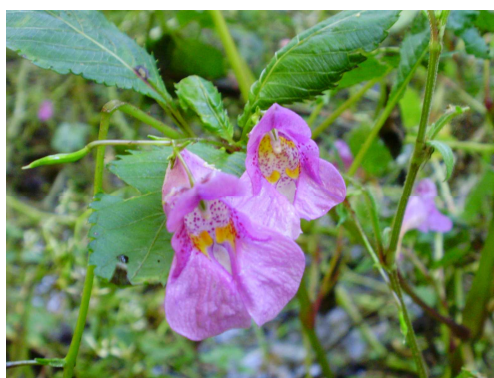
生きもの観察会



ニホンアマガエル



イワガニ



ツリフネソウ